

ハーバード大学からゴードン教授が来校 特別授業

災害・震災の情報 未来と世界に伝えよう

米ハーバード大学ライシヤワー日本研究所の日本災害デジタルアーカイブ(JDA)のプロジェクトリーダーを務めるアンドル・ゴードン教授の特別授業が行われました。

ハーバード大学との連携協定締結式の後、災害科学科全学年合同でアーカイブのあり方に関する授業を行いました。事前に震災アーカイブであるJDAにログインして各自が作業を進めてから授業に参加しました。

震災の伝承は時間とともに問題となりつつあります。画像や動画を収録したサイトはあるものの、それらに対する補足説明や翻訳作業は決して十分なものとは言えない現実があります。全世界が注目しているこれらの震災の事実の伝承に高校生が参加することで、より充実を図ると同時に防災・減災への呼びかけの足がかりとなる機会でした。(2018年6月20日)



平成30年度

多高通信

年間
特集号

待望の大講義室棟「iRis Hall(アイリス・ホール)」が校舎南側に完成しました。(2018年3月)

完成を記念し、京都大学防災科学研究所教授の矢守克也先生に「高校生に期待する防災・減災の取組」と題し、講演をしていただきました。



多様な学習の場として
iRis Hall 大講義室棟が完成
京都大学防災科学研究所教授 矢守 克也 氏が記念講演

東日本大震災メモリアルday 2018 平成30年度 みやぎ防災ジュニアリーダー研修会

3月2日(土)から3日(日)の2日間にわたり「みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会～東日本大震災メモリアルday 2018」が開催されました。これは将来の宮城を支え、自主防災組織等における次世代のリーダーなど将来の地域の防災活動の担い手を育成するため、防災に関する知識・技術を習得し、防災や減災への取組に自発的に協力、活動する高校生を「みやぎ防災ジュニアリーダー」として養成するものです。また、全国の高校生を中心とした若者が、自らの課題研究などの成果を発表し、さらにワークショップやポスターセッションなどを通して意見交換することで、東日本大震災の経験と教訓を後世に継承し、さらには国内外の減災に貢献することを目的としています。県内高校生20校111名に加え、北は北海道から南は九州・熊本県まで全国の13校31名、そして多賀城市内の中学校4校から19名、本校生徒を合わせ総勢161名の参加で盛大に開催されました。

初日は、まず被災地スタディツアーとして震災遺構「仙台市立荒浜小学校」と震災後地域に根付いた復興に取り組む企業「キリンビール仙台工場」に行きました。続いて、多賀城市内のホテルでは、開講式に引き続き、東北大学災害科学国際研究所今村文彦所長の基調講演「東日本大震災の教訓と最近の災害の特徴」を拝聴。そしてワークショップでは「多賀城高校オリジナルDIG」を行い、その後夕食・交流会を通じて交流を深めました。

2日目は多賀城高校に会場を移して、ポスターセッションを行いました。全体会では県外参加校が口頭で学校紹介を行い、ポスターでは「防災・減災等に関するテーマ」の他、科学的な研究成果発表をテーマに



各校とも堂々と発表しました。これには県内5大学6名の講師に加え、県外高校3校の先生方から直接の御指導をいただきました。これからの課題研究に大きな刺激を受け、今後の学習への取り組みに一層熱が入ることでしょう。



災害科学科一期生

夢を実現!!

災害科学科では、災害に関する基礎知識、自分の考えを相手に的確に伝えるためのコミュニケーション能力をはじめたくさんの方を学びました。そのどれもが大学への受験勉強としてだけではなく部活動や様々な交流活動での「力」となりました。この学びは、災害派遣で活躍し一人でも多くの人命を救う頼れる自衛官という自分の将来の目標に直結すると思います。もちろん大変なこともたくさんありました。しかし、災害科学科で学ばなければ今の私は確実にはないとも思っています。

多くの仲間や特別授業で来てくださった諸先生方に感謝し、必ずや自分の将来の目標を達成していきます。

百々正晶さん(仙台市立高砂中学校出身) ※写真中央

災害科学科1期生 ラグビー部の主軸としてチームを牽引。フッカーとして活躍した。将来は、災害救助を担う自衛官を目指して防衛大学校理工学専攻に進学しました。

◆災害科学科第1期生 <進路状況> (2019年3月現在)

- 防衛大学校(理工学専攻) 北海道教育大学(教育学部)
- 山形大学(理学部) 東京学芸大学(教育学部)
- 弘前大学(人文社会学部) 会津大学(C理工学部)
- 関西大学(社会安全学部) 日本大学(工学部) その他

記憶を継承～津波高標識設置活動・被災地案内

「まち歩き」ボランティア

都市型津波に襲われた多賀城市内の被災状況を後世に継承するため、震災の翌年から津波が到達した高さを示すプレート電柱などに設置。そのプレートと市内の史跡を巡るボランティアは生徒会を中心に受け継がれています。今年もたくさんの方を案内しました。



【↑生徒手作りのマップです。】

【←英語版】





米レーンテック高校と交流 **TOMODACHI** 交流

「多賀城市シカゴ TOMODACHI 交流プログラム 2018」でシカゴレーンテック高校の生徒 6 名が多賀城高校で過ごしました！

日米の高校生が相互訪問して次世代のリーダー育成を目指す TOMODACHI プログラムでシカゴのレーンテック高校の生徒 6 名と 2 名の教員が 6 月 25 日に終日多賀城高校で過ごしました。レーンテック高校の生徒の滞在は 6 月 25 日～6 月 30 日で、その期間は昨年多賀城高校からシカゴ訪問の際に交流プログラムに参加した生徒の自宅へ宿泊しました。ホスト生徒と授業に参加したり、アメリカ文化やシカゴ、レーンテック高校についてのプレゼンテーションを多賀城高校生の前で行ったりしました。また、語学研究部は「まち歩き」で多賀城市の被災跡を案内し、放課後には吹奏楽部や軽音楽部がパフォーマンスを披露しました。日本の学校生活を楽しく見学しました。



Super Science High School Students Fair 2018

8 月 8-9 日神戸国際展示場を会場に全国のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校の生徒による研究発表会に災害科学科 2 年生 5 名、1 年生 2 名が参加してきました。この研究発表会は SSH の全国大会に相当し、全国の SSH 指定校 208 校の各代表がポスター発表を行い、日ごろの研究成果を披露する場となっています。

多賀城高校は『東日本大震災による植生の攪乱と生物の応答～浦戸諸島、ハイブリッドマツに迫る～』というテーマで 2 年生が発表を行いました。この研究は、災害科学科 2 年生が昨年の浦戸実習で「クロマツとアカマツのハイブリッド」に着目して、その状況から東日本大震災やその後の再開発の環境へ与える影響を考えることを目的として研究してきたものです。

会場の規模や参加者・見学者の人数に緊張した様子でしたが、発表が始まると自分たちの研究について丁寧に説明し、質問にも真摯に答えました。2 日間の発表の中で、発表がみるみる上手くなっていき、自信をもって発表や質疑応答を行い、ほとんど見学者が途絶えることなく、多くの方々に自分たちの研究や復興への思いを伝えることができました。

【参加者の感想】「自分たちが災害科学科の実習を通して研究してきたことが、全国の舞台上で発表するようになったことに驚いていると同時に、嬉しくも思っている。東日本大震災や宮城県の復興のことにつながる自分たちの研究内容を全国の多くの人に伝えられたことがよかったです。他の学校の発表はとてもしレベルが高く、質問も難しいものが多かったが、仲間と協力して答えるように頑張りましたし、今後の研究にとても参考となる発表会でした。」



復興への思いを伝える 全国研究発表会で研究成果を披露

復興への思いを伝える

希望のトランペット (Talk & 演奏)

～グラミー賞トランペッター大野俊三さん来校～

4 月 24 日に、普通科 1 年生を対象とした「音楽 I」の特別授業が行われました。ジャズトランペッターの大野俊三さんをお招きしての演奏と講演をいただきました。交通事故により唇を切り前歯を折るケガや、ステージ IV の扁桃ガンとの闘病と顔面片側の唾液腺と神経を除去する大手術、この 2 度の致命的な危機から強靱な精神力で復活し、2 度目のグラミー賞を受賞した経験をお話いただきました。世界的に有名な音楽家の生演奏を聴く貴重な経験となりました。

【生徒の感想】希望や目標を持つことがどれだけ大切で、諦めないことが夢の実現に繋がることを実感しました。これまで、私自身がネガティブな考えを捨てきれず、ちょっと上手いかないだけで諦めてしまったことが多くあったので、今日の話聞いて、夢を叶えるために忍耐強く実践してみようという勇気をもらいました。

「多賀城高校の特別授業」

多賀城高校の特別授業は多彩な授業を展開しています。学校設定科目「くらしと安全 A」では、東日本大震災時臨月だった石巻のお母さん・佐々木有香子さんの被災体験を聴講したり、「地理 B」の授業では、著名な冒険家である関口裕樹さんの先住民イヌイトとの交流のお話を聞いたり、様々な分野で 30 以上の講座を開きました。



ESD 大賞 受賞!!

さる 12 月 8 日に行われた、ユネスコスクール全国大会において本校の取組がユネスコスクール最優秀賞を受賞しました。

防災学習・自然科学学習・国際理解を柱とした ESD 活動が全国的に高評価を得ることができました。持続可能な社会の形成者を目標とした生徒一人一人の学習の成果が評価されました。今後とも本校の ESD 活動へのご支援をよろしくお願いいたします。

ビジュアルコミュニケーション Zoom による 遠隔地交流事業



インドネシアの高校と文化交流はじまる

十二月四日、国際協働型プロジェクト学習開始として、本校災害科学科の 2 年生とインドネシアにあるサントラローレンシア校 (Zoom) を利用したアプリを用いた文化交流授業を行いました。回線の関係でコミュニケーションが上手くとれないところもありましたが、Zoom でミラーリングをしたり画像を提示したりすることで乗り越えることができました。



被災地 支援



今年度、被災地支援の一環として行った募金活動の総額は、**368,611** 円でした。

大阪・岡山・北海道の被災校に届けることができました。ご協力・ご支援ありがとうございました。(生徒会)

浦戸巡検

多賀城高校災害科学科では、様々な巡検を行います。9 月、JANSTEC の小俣珠乃先生のご指導のもと、塩釜市浦戸諸島でフィールドワークをおこないました。このほかに、北海道洞爺湖有珠山ジオパーク巡検・北海道釧路湿原巡検・つくば巡検・栗駒巡検・女川石巻巡検など、学習の機会が多く用意されています。

